

STEP 4

さまざまなアプローチから はぐくみを実践する。

保育のサイクルを意識した時間の使い方や質を高める振り返りの仕方、
保育者同士の情報共有、チームづくりなど、より良いはぐくみを実践するための
さまざまなアプローチをご紹介します。

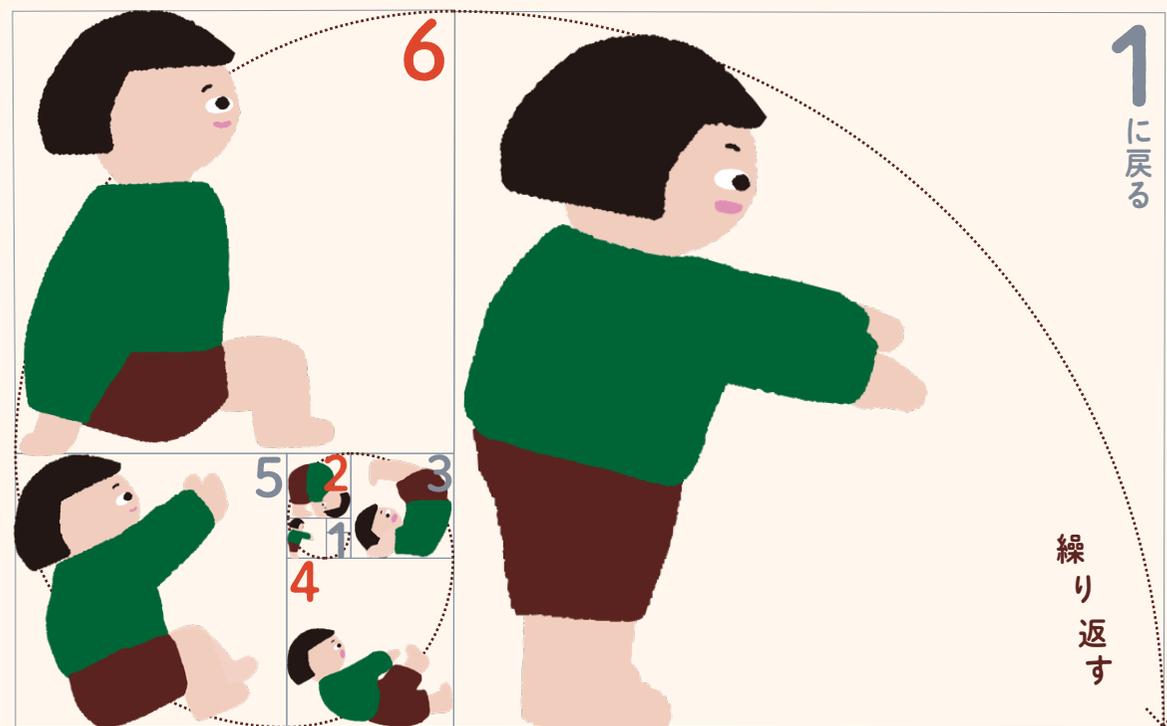


はぐくみのサイクルを回そう!

今ある子どもの姿を見つめることから、保育は始まります。

その姿から子どもの興味・関心・状態をつかみ、そっと後押しし、試行錯誤を見守る。

そしてプロセスや結果を振り返り、新たなアクションにつなげていく「はぐくみのサイクル」をぐるぐると回していきましょう。



姿を見つめる

1 子どもの「ありのままの姿」を見つめ、観察しましょう。その表情や言動には、さまざまなメッセージが込められています。「観察する」という意識を持つことで、子どもが発しているサインや変化にも気づけるようになります。

興味・関心・状態をつかむ

2 子どもは日々のなかで、たくさんの刺激を受けて変化・成長しています。今持っている興味や心と体の状態・バイオリズムなどを把握し、プログラムのテーマや内容、時間の使い方を調整していきましょう。

そっと後押しする

3 驚きや感動など、子どもが何かに心を動かされているときは「好奇心のたね」が生まれるチャンスです。子どもが探究の一步を自分から踏み出せるよう、対話を通してそっと後押しし、きっかけを作りましょう。

試行錯誤を見守る

4 「完成」や「ゴール」だけでなく、過程にも意識を向けてみましょう。子どもが試行錯誤しているときは、あえて見守るのもひとつの選択。本人が望む結果にならなくても、その価値を伝えることで受け止め方は変わるはずです。

振り返りをする

5 「振り返り(リフレクション)」には、自分自身に対して行うもの、保育者同士で行うもの、子どもたちで行うものなどがあります。アプローチの方法についてもいろいろと試しながら、自分や園に合ったスタイルを見つけていきましょう。

次につなげる

6 「振り返り」で得た気づきや学びを、次の実践につなげましょう。このサイクルを回すことで、子どものはぐくみはもちろん、保育者のスキルアップやチーム形成にもつながり、関係者全員が探究を楽しめる場が生まれていくでしょう。

Point

この世界は常に変化し続けるもの。はぐくみのサイクルも、一周して元に戻るのではなく、変化した子どもや自分の状態を踏まえてサイクルを繰り返すため、螺旋を描きながら進んでいくイメージになります。このサイクルは、一日の活動のなかでも実践できますし、長期的な関わりにも活用できます。



時間を柔軟に使ってみよう!

一日の保育スケジュールは決まっているため、時間を柔軟に使うことはなかなか難しいもの。でも、子どもの状態に合わせてちょっと予定を伸ばしたり、短くしたりという調整が子どもの達成感を生み、トラブルを防ぎ、より良い保育を実現する可能性があるのです。

Point 予定を早めに切り上げた場合は、
場面転換で調整しましょう。



- 例
- ・外に遊びに出る活動に切り替える
 - ・給食の準備を早めに始める
 - ・保育者主導でできる絵本の読み聞かせなどに切り替える など

集中して創造性や探究心を 深掘りしているとき

つくっているもの、調べていることが
もう少しで完成・完了しそう



予定を終了



試行錯誤の時間がなくなり、
子どもの創造性を伸ばす機
会が失われてしまうかも。

予定を延長



やり遂げることができた達成
感から、創造性や自己肯定感
をはぐくむことができるかも。

関係性に変化が 起きているとき

これまで交流のなかった2人が
一緒にブロックで何かをつくり始めた



予定を終了



人間関係を深める機会や、
新しいコミュニケーションの
機会が生まれにくいかも。

予定を延長



新たな友人関係から、多様
なコミュニケーションを学ぶ
機会になるかも。

心や体に 変化が起きているとき

お腹がすいてグズグズ、集中力が切れてウロウロ、
感情が高ぶってイライラしている



予定を継続



子どもの心理状態や体調が、
より悪い状態になってしまう
かも。

予定を短縮



心理状態の悪化に歯止め
がかかり、落ち着いて活動に
戻れるかも。

振り返りで保育の質を高めよう!

振り返りは、その目的によって主に3つに分けられます。「より良い保育の実践」につなげるため、できるだけフラットな視点で、子どもの言動や自身の関わり方を振り返り、見つめなおしましょう。

自分自身と振り返り



「関わり方」や「視点」をブラッシュアップし、スキルの向上へとつなげることができます。またエピソードやシーンを丁寧に振り返ることで、リアルタイムでは気づけなかった子どもの感情や心理を考察し、理解を深めるねらいもあります。

保育者同士で振り返り

自分以外の「多様な視点」や「関わり方」を知ることができます。情報共有で終わらせるのではなく、「より良い保育の実践」という目的意識に基づく具体的な意見出しにより、チームとして目指したい「あり方」や「共通認識」がはぐくまれます。



子どもたちと振り返り

遊びや活動の振り返りとして、子どもたちが「どんな気持ちで、何をしていたのか／どんなことを発見したのか」を共有することで、次の探究や興味・関心へとつなげます。また、子どもの状態を包括的に把握し、より良い保育の場づくりに生かすこともできます。



Point

使用するツールによって残せる情報の質が異なります。



付箋・メモ書き

自由度が高く、キーワードを抽出できる。また、気持ちなど、情緒的な情報からも振り返ることができる。



写真で残す

風景や活動の様子を視覚的に残せる。また、保護者やほかの保育者との情報共有がしやすい。



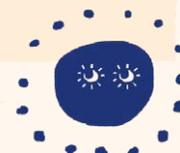
動画で残す

子どもの動きや発言などを長時間記録できる。また、言葉で表せない背景の環境や詳細な状況の確認ができる。



日記で残す

内省することで、自身の思考を整理・言語化できる。また、継続することで子どもの変化などがつかみやすくなる。



自分自身と振り返りをしてみよう!

自分自身との振り返りは、保育者同士で振り返りを行う際にも必要になります。とはいえ、明確な「答え」や意見を準備する必要はありません。まずは自分が感じている「問い」や「考察」を、ほかの人にわかりやすく伝えるための「思考の整理」だと考えてみましょう。

Point

個人の振り返りで、整理できたものとはできないものがあるはずです。残ったモヤモヤは、チームの振り返りで問いとして投げかけてみましょう。



お迎えの時間が迫っていたので、「早くお片づけしなさい」と強めに言ってしまった。本当は何を思っているのかを聞いてあげられるチャンスだったのに。



ケンカを止めないといけないと思い、間に入って「お互いに謝りなさい」とその場を収めてしまったけど、ケンカの原因となったことやそのときの感情は収まってないのかも。



教室の隅にひとりであったのに声をかけずに集団での活動を優先してしまっただ。次の日、お休みしたAくん。このとき、どんな状態でいたんだろう。



野菜にほぼ手をつけずにごはんのおかわりをしたので「ダメ」と伝えただけで、その後余計に食わなくなってしまった。「ごはんを食べたい」という気持ちをまずは尊重すべきだったのかな。



チームで振り返りをしてみよう!

ひとりでは解決できないことも、チームで考えれば糸口が見つかるかもしれません。チームでの振り返りの機会を積極的につくることで、仲間になれる人を再認識・発見していきましょう。



はぐくみさん

ごはんを食べたい気持ちをまずは尊重すべきだったのかな。



保育士さん

私も同じような経験があるな。あのときはどうしたかな。



園長さん

長い目で成長を考えたときの
声かけを意識してみてもどう?

野菜にほぼ手をつけずに
ごはんのおかわりをしたので「ダメ」と伝えた



野菜に手をつけなかったことに、
何か理由はあるのかな?



栄養士さん



調理師さん

調理方法や食材の組み合わせで
工夫できないか、
考えてみてもいいかも。

野菜に興味を持てるような
道具やおもちゃが
どこかにあったかもしれん。



用務員さん

Point

チームでの振り返りで心がけたいこと

- ① 自分の問いや意見を大切にす。
- ② 自分の意見と同じくらい、他人の意見や価値観も尊重する。
- ③ 「正解」や「間違い」という評価を手放し、傾聴する。
- ④ どのような立場・役割の人も同じゴールを目指す仲間として参加する。
- ⑤ 人の数だけ「手立て」が増えることを前向きに捉えて、自分の考えや価値観の幅を広げてみる。

あなたならどのような関わり方や
アイデアが浮かびますか?

園の外に出て、 はぐくみ仲間を見つけよう!

あなたの近くには、
子どもの健やかな成長を願う
はぐくみ仲間がたくさんいるはずです。
保育の常識という枠の外に出て、
保育を楽しんでいきましょう!

